

資料①

【Telepiiの誕生について】

iPresence合同会社代表のクリストファーズは、英国人の父と日本人の母の間に生をうけ、神戸で生まれ育ちました。14歳の時、阪神淡路大震災を神戸市内で経験、住んでいた地域が壊れ、家族や友達が離れ離れになる経験を経て、自分の居たい場所に過ごしたい人ということの大切さを知り、『i + Presence→私の居たい場所に居る』を実現する会社を作りました。

【Telepiiのアイデアと協力者】

コロナの影響により代表のクリストファーズは、英国に住む家族と離れ離れの生活を余儀なくされました。彼は家族が大好きで大切です。震災時のように会いたいことを諦めるのではなく、個人が廉価で、しかも誰でも、電話をかけるように簡単に使いこなせ、遠くにいる人と過ごせる、新しい機器を作りたいと開発を目指しました。

しかしこのアイデアを実現化するには、通信、ロボット技術に熟練したノウハウを持ち、人との関わりを大切に強い思いを持つパートナーが必要でした。

そんな中、『製造業の巧み、Made in Fukushimaの誇り』を標榜する、アサヒ電子株式会社(アサヒ通信株式会社グループ会社)と出会い、Telepiiの目的・コンセプトを共有、共感いただけただけことから、アサヒ通信株式会社のワイヤーハーネス技術を用いてTelepii量産の為の開発連携をいたしました。

【Telepiiのモニター募集について】

ご周知のように福島県川俣町の一部地域(山木屋地区)では、2011年(平成23)3月11日の東北地方太平洋沖地震により発生した、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、2011年4月22日から2013年8月7日まで立ち入りの制限をされていました。

そんな経験をされた方に、まずは使用いただきご意見をいただきたいと考え、今回モニター募集の労を川俣町にお願いいたしました。

このような経緯からMade in 福島神戸に川俣町も参画いただいた次第です。

福島の思い



iPresence

神戸の思い

資料②

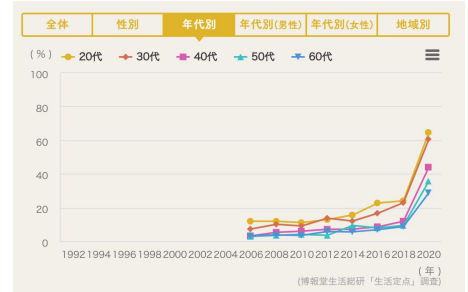
【昨今の通信事情】

通信の手段は、電話からテレビ電話に変化しています。それは年代を問わず、大きな流れになっています。

博報堂『1992-2020生活定点』によれば、

- * テレビ電話を利用している人 46.0%
- ・2018年から2020年の2年間で31ポイント増
- ・女性利用が9ポイントも高い
- ・20歳代64.6%(平均より19.9%高い)
- ・60歳代28.8%(60代でも28.8%は高い)

という調査結果が出ており、テレビ電話はすでに一般的な通信として活用されています。



Telepiiはテレビ電話の次に来る通信アイテムで、他に類を見ない家庭用テレポート機器です。

【Telepiiの概要】

ZOOMのようにPC内でみんなが会話するのではなく、実際の家族や友人の中に、置かれたTelepiiを遠隔地から操作する人の意思で360度回転させ見たい人、モノを見ることができます。

下の図が、Telepiiが作り出す、団欒の想像図です。

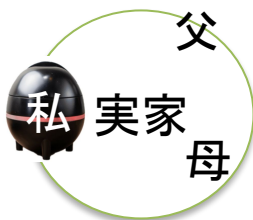
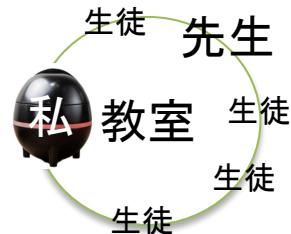
下記のような状況に置かれている人たちの団欒を作りたいと思います。



高齢者介護施設で暮らす親と娘(息子)



学校(施設)に通学できない生徒と学校(施設)



子育てに悩む娘と母親